

平成28年11月18日

V I A X 児童部会

平成28年度 第4回「基本図書から学ぶ」報告書

1. 日時 平成28年11月18日（金） 14:00～16:00
2. 場所 ヴィアックス研修センター（鳩山ビル6階）
3. 参加者 14名
4. 配布資料①紹介文まとめ『イギリスとアイルランドの昔話』  
②紹介文まとめ『白いりゅう黒いりゅうー中国のたのしいお話』  
③紹介文のまとめ『子どもに語る日本の昔話①』  
④28年度第4回児童部会「基本図書から学ぶ」昔話 資料
5. 課題本  
『イギリスとアイルランドの昔話』  
（J・D・バトン絵 石井桃子編集・翻訳 福音館書店 1981）  
『白いりゅうと黒いりゅうー中国のたのしいお話』  
（賈芝、孫劍冰編 君島久子訳 赤羽末吉さし絵 岩波書店 1964）  
『子どもに語る日本の昔話①』  
（稲田和子再話 筒井悦子再話 こぐま社 1995）
6. 内容
  - （1）事務局より以下の点について、説明があった
    - ① 昔話のレビュー・スリップの書き方の注意点について
    - ② 昔話について（配布資料④参照）
  - （2）4つの班に分かれ、課題本の中から各班1冊ずつ担当本を決め、<子ども達がどのよ  
うに楽しむか>を話し合い、発表を行った。以下、各グループの発表内容である。  
  
A班『白いりゅう 黒いりゅう』
    - ・ 最初のページに地図が有り、どの地方のお話なのかを具体的に想像しやすい
    - ・ トラや龍、仙人など、中国らしい登場人物が出てくる

- ・ 表紙と見開きに龍の絵があり、雄大で迫力がある
- ・ さし絵は、モノクロに明るい黄色が使われていてあたたかい雰囲気がある
- ・ 冒険が多くわくわくすると同時に、行って帰ってくるお話が多いため、安心して読む事ができる
- ・ 日本と同じアジアの昔話なので、子どももイメージしやすく読みやすい
- ・ 「くじゃくひめ」は日本の羽衣伝説に似ているなど、類似性も楽しむことができる
- ・ 「白いりゅう黒いりゅう」では黒いりゅうにだまされないようにするなど、教訓も入っている
- ・ 「九人のきょうだい」の登場人物の名前が、本人の能力の特徴を表していてわかりやすく愉快

#### B班『子どもに語る日本の昔話①』

- ・ 子どもが語ってもらって楽しめるように考えて作られている
- ・ 方言やかかけ声や、耳慣れない言葉を楽しむことができる
- ・ よく知られている話が多い。同じ話をくり返し聞くことを楽しんだり、同じ話でも再話者による違いがあることも楽しむことができる
- ・ 不思議な体験や怖い部分もあり、想像して楽しめる

#### C班・D班『イギリスとアイルランドの昔話』

##### (C班)

- ・ 「ちいちゃい、ちいちゃい」「チイチイネズミとチュウチュウネズミ」などは、リズムカルな文章で、読んでもらう楽しさがある
- ・ アイルランドの昔話は小人や妖精が出てくるものが多く、不思議な世界が楽しめる
- ・ 悪い者は罰を受け、良い者は幸せになるという展開が読み手に安心感を与える
- ・ 「三びきの子ブタ」や「ジャックとマメの木」など有名な話も、省略されず原話が尊重されているので、「本当はこんな話だったんだ！」という驚きがある

##### (D班)

- ・ 文章がリズムカルで、耳から聞く楽しさがある
- ・ 長い話と短い話があるので、多様な年齢で楽しめる。
- ・ 「ミアッカどん」「ちいちゃい、ちいちゃい」はこわいお話会で語ることができる
- ・ 日本の昔話と類似している話がいくつかある。（「トム・ティット・トット」と「大工と鬼六」、「ノックグラフトンの昔話」と「こぶとりじい」等）
- ・ 絵本になっている話も多いので、好きな話を絵本でも楽しむことができる

(3) 事務局より、全作品を通してまとめがあった。

昔話は口頭伝承されていたものを再話している。話の中には、勸善懲悪であったり、教訓、小さい者でも知恵や機転を利かせて大きい者に打ち勝つことが出来る等、様々なことを知ることができ、それを冒険活劇や物語として楽しめる。又、行きて帰りし物語になっているので、子ども達は安心して楽しく読むことができる。

(4) 耳から聞く体験として、『子どもに語る日本の昔話①』より「こぶとりじい」の素話を聞いた

(5) 各班で、各自が作成した紹介文の良い点を確認したうえで、紹介文を作成した。以下、各班が作成した紹介文である。

#### A班『白いりゅう黒いりゅう』紹介文

岩波おはなしの本シリーズの7巻目で、中国の6つの民族に伝わる昔話が1話ずつ入っています。西洋にも日本にもない、中国独特の風土や文化、人々の願いが感じられる民話ばかりです。本のはじめには民話を伝えた少数民族が地図とともに紹介され、親しみが湧いてきます。表題作であるパイ族の「白いりゅう黒いりゅう」では、強い黒いりゅうが様々な謀略をヤン名人に仕掛けてきます。見開きには、黒いりゅうの絵が描かれていて、読み手を待ち構えているようです。タイ族の「くじゃくひめ」は日本の羽衣伝説とアラビアン・ナイトを感じさせるスペクタクルな冒険活劇となっていて最後まで目を離せません。絵本『スーホの白い馬』などで知られる赤羽末吉さんの画は、ユーモラな雰囲気や、雄大な土地に広がる昔話の様子をのびのび表してくれています。「岩波おはなしの本」シリーズには、世界各地のめずらしいお話が収録され、いずれもおすすめです。

#### B班『子どもに語る日本の昔話』紹介文

この本には、日本各地の短い昔話が25話載っています。「舌きりすずめ」や「大工と鬼六」など有名な話から、馴染みのないめずらしい昔話も紹介されています。文章は語り手の言葉をそのまま文字にしたように書かれており、聞いたこともないような方言も出てきます。子どもはそうした言葉を耳から聞いて想像力をはたらかせ、表現の豊かさにひかれたり、言葉への興味やさまざまなものに対する好奇心が育まれます。また、各民話について実際に子どもに読んだ時の反応や対象年齢が記載されているため、どの話を聞かせようか決める際の参考にすることができます。

「子どもに語る日本の昔話」はシリーズとして全3巻出ています。現在、人気の某CMは昔話の主人公が出ていますが、そのお話もシリーズの中に入っていますので、ぜひ読んでみてください。

#### C班『イギリスとアイルランドの昔話』紹介文

イギリスのジェイコブズやアイルランドの詩人イエーツの昔話集などから、訳者が選び編集した昔話集。「ジャックと豆の木」や「三びきの子ブタ」などイギリスの昔話 22 話と若者グリーンシが妖精たちに連れ去られようとしたお姫様を助ける「グリーンシ」などアイルランドの昔話 8 話が収められています。

小人や妖精、巨人などが登場し、非現実的な世界に迷い込んでいるような不思議な感覚になります。主人公たちが危機や困難を乗り越え幸せになるストーリーは、読後感が良く満足できます。所々にある繊細な挿絵もお話を想像する手助けとなり、より昔話に入りやすくなっています。イギリス、アイルランドがこれまでより身近に感じられるようになりそうです。音で聴いても心地良い石井桃子訳で、読み聞かせや素話にもおすすめです。小学校中級からは自分で読むこともできるでしょう。

#### D班『イギリスとアイルランドの昔話』紹介文

イギリスとアイルランドに伝わる昔話の中から、「三びきの子ブタ」「ジャックとマメの木」など 30 話収録した昔話集。1959 年にあかね書房から出版された「イギリス童話集」がもとになっています。イギリスのジェイコブズ、アイルランドの詩人イエーツらが再話した昔話を、「クマのプーさん」の翻訳などで有名な石井桃子が訳しました。

声に出して読むのにおすすめの、リズムカルで美しい文章です。字が小さくて厚みのある本なので手に取るのをためらう子もいるかもしれませんが、そういった子にはぜひ一話読み聞かせてあげてください。日本の「こぶとりじいさん」や「大工と鬼六」にそっくりな話もあり、違いを比べるのも面白いでしょう。

出版以来、ご家庭でも図書館でも読み継がれている昔話のロングセラーです。

#### (7) 所感

- ・ 素話「こぶとりじい」を実際に耳から聞くことで、昔話の持つリズムカルな言葉の面白さ、日常から不思議な体験をして、また日常へ戻るという展開を想像する楽しさを感じた
- ・ グループで紹介文をまとめる作業では、紹介したい部分がほぼ共通していた為、非常にまとめやすかった。また、個々の感想や魅力的な紹介をしている部分を用いることで、より読みたいと思わせる文章に仕上げることができた
- ・ グループワークは今回で四回目となるため、どんな情報を紹介すると良いか、また、どのように説明するとわかりやすく伝わるかが精査されてきたように思う。これに留まらず、読んでみたいと思わせる魅力的な紹介文を書けるよう今後も学んでいきたい